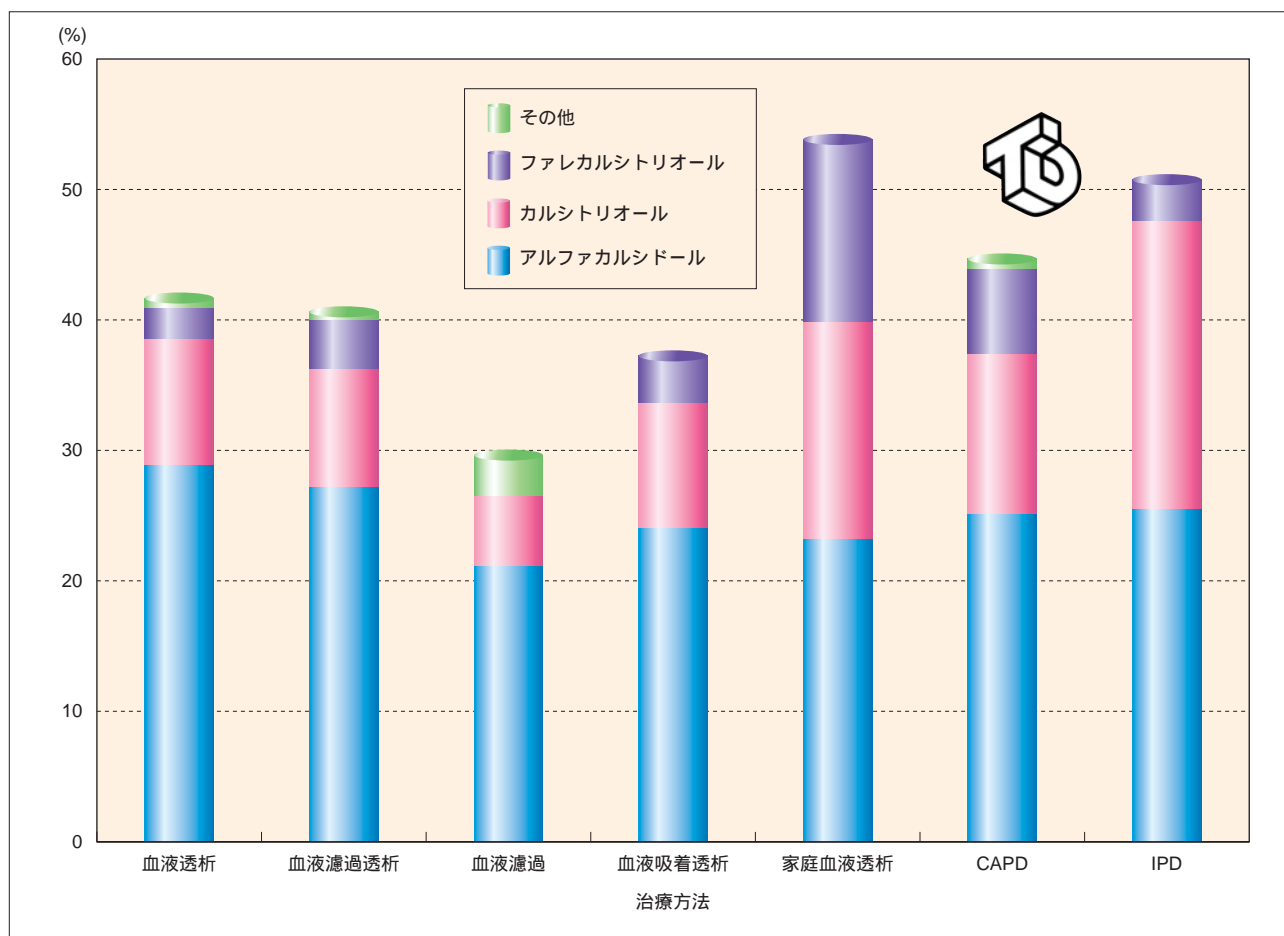


2) ビタミンD製剤の使用状況

(1) 治療方法別 経口ビタミンD製剤の使用頻度 (図表29)



治療方法	アルファカルシドール	カルシトリオール	ファレカルシトリオール	その他	使用していない	不明
血液透析	48,388	15,687	3,904	1,032	95,917	947
(%)	(29.2)	(9.5)	(2.4)	(0.6)	(57.8)	(0.6)
血液濾過透析	3,184	1,094	425	78	6,911	39
(%)	(27.1)	(9.3)	(3.6)	(0.7)	(58.9)	(0.3)
血液濾過	12	3		2	40	
(%)	(21.1)	(5.3)		(3.5)	(70.2)	
血液吸着透析	87	35	13		226	1
(%)	(24.0)	(9.7)	(3.6)		(62.4)	(0.3)
家庭血液透析	22	16	13		44	
(%)	(23.2)	(16.8)	(13.7)		(46.3)	
CAPD	1,149	557	296	35	2,463	75
(%)	(25.1)	(12.2)	(6.5)	(0.8)	(53.8)	(1.6)
IPD	38	33	5		72	1
(%)	(25.5)	(22.1)	(3.4)		(48.3)	(0.7)

数値は行方向の合計に対する%です。

解説

慢性腎不全に伴う腎性骨症の治療としてビタミンD製剤が使用されていますが、本邦では最近マキサカルシトール、カルシトリオールの静注用製剤が発売され、経口に加え静注のビタミンDパルス療法も可能となりました。

まず、経口ビタミンDについて治療方法別の使用頻度について検討しました。いずれの治療法においてもアルファカルシドールの使用頻度が最も高値でした。血液透析に比較してCAPDでは経口ビタミンD製剤の使用頻度が高く、なかでもカルシトリオール、ファレカルシトリオールの使用頻度が高く認められました。CAPDでは静注パルス療法が施行しにくい現状が関係していることが推測されます。